

所報

題字：武田満之校長(平成9年、野幌中学校)

第199号 令和8年4月17日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

(主な内容)

・令和8年度江別市公立小中学校の教育活動
スタートにあたって

江別市教育委員会教育長 黒川 淳 司

令和8年度江別市公立小中学校の教育活動スタートにあたって 教育長7年目の願い

江別市教育委員会教育長 黒川 淳 司

■ 全25校のがんばりに感謝

R8年7月から7年目を迎えます黒川淳司です。これまでの間、子どもに寄り添う教育について、江別市内全学校のスタッフで、その実現をめざして汗を流してきてくれました。江別市のすべての学校の先生方に、心から感謝申し上げます。

子どもたちが素直で一生懸命なのは、江別市の先生方の姿を見て「そうありがたい」と、学んできたからだと思います。研究熱心で、いくつになっても授業改善に情熱を燃やす先生方だからこそ、子どもたちもまた、生き生きと学び続けているのだと思います。

地域の方々のボランティアなど、力を貸してくださる人たちがたくさん存在するのも、江別市のすばらしいところです。

小中一貫教育や、ICT機器の活用をはじめ、いじめや不登校への対応、特別な支援を必要とする児童生徒への対応など、多くのことをお願いしてきておりますが、その一つ一つに、真摯に、丁寧に対応いただき、本当にありがとうございます。

■ 自分が達成できていない二つの課題

① いじめに対する子どもたちの意識改革

わたしが、毎年呼びかけさせていただいていることで、江別市としてなかなか達成できていない点が、ふたつあります。

一つ目は、全国学調の『「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う』と回答する児童生徒100%到達をめざしませんか』という呼びかけです。

子どもには、それぞれ良さがあるのだから、何事も100%に揃えようとするのは無理がある、あるいは、学習でも運動でも得意な子、苦手な子それぞれを個々の大切な存在として認めつつ、意図的・計画的な指導を重ねることは重要と思います。しかし、「いじめは理由がある場合は、しかたがない」と考える子たちが毎年1割程度存在することは、課題であると考えています。「自分がいじめられた場合は、やり返しても仕方がない」という理由なのかどうかは、よくわかりませんが、「いじめ」という人権侵害をいけないことだと思わないことを、その子の「個性」としてそのままよいことにはならないと私は思います。江別の全部の先生方で、「いじめはどんな理由があってもいけない」と感じる子たちを育てていきませんか？

② 体罰・不適切な指導の根絶

私が呼びかけたい2つ目は、「体罰調査で、『教師による不適切な指導があった』とする保護者や児童・生徒からの訴えを0にしませんか?』というものです。

体罰調査は平成 25 年に始まり、昨年度で 14 回目の調査となりました。現在は Web ページからの回答を原則としていますが、当時は、一つ一つの封書を教育委員会で教頭と委員会職員が立ち会いの下、開封して確認し合っていました。体罰を訴える調査票がかなりの数になる学校もあり、それらの調査票の半数近くは、詳細な聞き取りや調査を行って報告書を提出しなければなりませんでした。

その中から管内全体で 1, 2 件の体罰案件が明らかとなり、教員が処分される事案に発展したこともありました。各校教頭からは、この膨大な作業に対して多くの苦情が寄せられ、数年たってもまだ続けるのかとの不満も聞かれました。

実際にはこれが中止になるどころか、次第に「体罰」から「不適切な指導」に調査の重きがシフトしていきました。令和 4 年の生徒指導提要改訂で、「不適切な指導」が明文化され、令和 5 年からは体罰調査に、調査項目として位置付けられるようになりました。

令和 7 年度に体罰や不適切な指導に関する記載が 0 だった学校は 8 校です。一方で、他の 17 校では 62 件の記載があり、1 校あたり 4 件ほどになります。

江別市の先生方は、「子どもが主役の学校づくり」をご理解いただき、また「時代は変わった」ということをご理解いただき、授業をはじめ生徒指導や部活動などにおいても「寄り添う指導」に努めていただいています。一部で残る昔のままの授業、昔のままの指導は、今こそ変わらなければならないということ、各学校で再確認してくださいませう、よろしく願いいたします。

■ 「働き方改革」に関する文部科学省の 3 分類について

「学校と教師の業務の 3 分類」については、これまで、お役所がいかに現場を理解していないかがバレバレの記載に、あきれてしまうことがありましたが、この度、少し改善が図られました。

例えば『進路指導』を事務職員と協力して負担軽減を図る」や、「休み時間は輪番で地域ボランティアが対応する」などは、全国で様々な指摘があったためか、「3 分類」の表現が修正されており、項目も加えて少し現実味が出てきました。

江別市の第 3 期推進計画においては、今後の改定の際に北海道のアクションプランを参考としつつ、できるだけ江別市ならではの具体策を盛り込んでいけるように検討してまいります。

今年転入された先生方、引き続き江別市でがんばってくださる先生方、令和 8 年度の江別市の教育をどうぞよろしく願いいたします！

江別市教育研究所は、教育の理論や実践についての専門的研究を行い、教育の進展と充実を図ることを目的とし、昭和 30 年に設立され、今日に至っています。

令和 8 年度も、市内各校の協力を得ながら、「夏期セミナー」などの教職員研修の実施や、児童生徒の意識調査をまとめた「調査研究報告書」の発行、小学校外国語教育の充実に向けた協議会運営に取り組んで参ります。また、教育研究所の活動を「所報」にて随時紹介し、情報提供にも努めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。